

令和7年度

地域力応援基金助成事業 活動報告書



地域力推進課

区民協働・多文化共生担当

はじめに

地域力応援基金へのご寄付をいただいた皆様に、心から感謝を申し上げます。

区民や事業者の皆様からいただいた寄付金を原資とした「地域力応援基金」を活用し、区民活動団体により、様々な地域の課題解決のための活動が実施されています。

令和7年度の地域力応援基金助成事業について、助成団体からの活動報告をとりまとめました。

ぜひご覧いただき、連携・協働のヒントとしてもご活用いただけると幸いです。

★本書は、令和7年度地域力応援基金助成事業に採択された団体から提出された活動報告書を一冊にまとめたものです。

■地域力応援基金助成事業の概要

地域力応援基金助成事業は、平成 21 年度の制度創設以来、区民活動を支援するとともに、協働を推進する施策として実施してきました。これまでの事業の実績や地域活動の現状を踏まえ、令和元(平成 31)年度から以下の現行制度となりました。

-各助成事業の概要-

	スタートアップ助成	ステップアップ助成	チャレンジ助成・チャレンジプラス助成
主旨	団体の基盤となる事業の応援	基盤となる事業を拡大・拡充させる事業やスタートアップ助成事業の規模拡大の応援	新たな地域課題や新規事業にチャレンジし、地域の連携・協働の深まりが期待できる事業を応援 このうち、区が示すテーマに即した事業であれば、申請額の上限を 50 万円増額とする(チャレンジプラス助成)。
要件	設立から6年未満	設立から2年以上	設立から5年以上、かつ過去に地域力応援基金助成事業で採択された団体は、実施終了から2年以上経過していること
総額	総額 200 万円 (継続 150 万円)	総額 280 万円 (継続 210 万円)	総額 1,000 万円 (継続 750 万円)
助成額	1事業につき 20 万円まで (継続は 15 万円まで)	1事業につき 40 万円まで (継続は 30 万円まで)	1事業につき 200 万円まで (継続は 150 万円まで) ただし、チャレンジプラス助成として申請した場合は、250 万円まで(継続は 187 万円まで)

令和7年度実施 地域力応援基金助成事業 活動報告書 もくじ

【スタートアップ助成】

■新規

団体名	事業名	頁
ほっとスマホステーション	ほっとスマホステーション	3
tanetomi(種と実)	地域花壇から生まれた新しいまちづくり	4
一般社団法人和文化研究さくら	和文化研究さくら	5

■継続

団体名	事業名	頁
ユキガヤウオッチング	絵本の制作・出版・配布(寄贈)	6

【ステップアップ助成】

■新規

団体名	事業名	頁
ちょうちょとおはな	ちょうちょとおはな	7
池上こどものまちコアメンバー会議	池上こどものまち	8

■継続

団体名	事業名	頁
大森室内楽愛好会	音楽アウトリーチ活動	9
おおお知るまちプロジェクト	“おおお”をもっと知り、もっと好きになるプロジェクト	10
東京プレクトラム音楽協会	大田区音楽交流プロジェクト	11
一般社団法人伝統工芸発展の会	大田区伝統工芸展	12
特定非営利活動法人どこでもオリヒメ	ICT 活用による社会参加推進事業	13

【チャレンジ助成】

■継続

団体名	事業名	頁
おおた生涯学習世話人会	「大田区学」の学びを講座とフィールドワークで推進する事業	14

【チャレンジプラス助成】

■新規

テーマ『大田区で働く「福祉のしごと」魅力発信事業』

団体名	事業名	頁
おおた地域見守りネットワーク	福祉職体験とSNSでの情報発信(オンライン地域コミュニティの構築)	15
特定非営利活動法人あかしろきいろ	未来の担い手と一緒に考える「福祉の仕事」の魅力発信(子ども分野編)	16

■継続

団体名	事業名	頁
特定非営利活動法人 CONNECT	女性や高齢者向け防災アプリ活用方法の普及啓発	17

地域力応援基金へのご寄付のお願い ……………

18

スマホのちょっとした悩みを身近なお店で解決

事業名 ほっとスマホステーション

助成額 13万円

◆地域での課題

スマホショップに行くまでではないような、スマホに関するちょっとした悩みを持っている高齢者は多く、家族だと意外と聞けない事もあるため、歩いて行ける範囲の身近な所でスマホの相談ができる場所というのが必要になります。

◆基金事業概要と達成した成果

今年度の事業は、ほっとスマホステーション事業所でのスマホ相談と、出張スマホ相談会、そして生活リハビリテーション講座の3本柱で実施しております。

ほっとスマホステーション事業所でのスマホ相談は各事業所で通年行っており、出張スマホ相談会は年間3回(6月、10月、2月)の実施でシニアステーションや老人いきいの家などに行きました。生活リハビリテーション講座も年間3回(9月、1月、3月)実施して参加者は延べ115名となっております。

◆これからの取り組み

今後は、ほっとスマホステーション事業所にも、もっと足を運んでもらえるように、生活リハビリテーション講座に参加した方にLINEの登録をしていただき、講座の情報や各事業所の情報を発信していきます。さらにLINEのスタンプカード機能を使って、行きたくなるような仕掛けを作っていきます。



【出張スマホ相談会の様子】

お一人30分間の相談時間ですが、ほとんどの人が足りないくらい多くの質問が出てきます。



【生活リハビリテーション講座の様子】

この時は骨盤底筋体操を実施しました。雪谷特別出張所の広い会議室でも狭く感じるくらい多くの参加者が集まりました。

団体名 ほっとスマホステーション

会員数 4名

設立

2021年(令和3年)

団体の活動目的 活動実績

操作に不慣れな高齢者や障害者が行政サービスや情報収集から取り残される「デジタルデバインド(情報格差)」にならないように、歩ける範囲内の場所に「ほっとスマホステーション」を作って、多くの方がスマホを使いこなせるように取り組んでおります。

【実績】

- ・ほっとスマホステーション事業所でのスマホ相談(通年実施)
- ・出張スマホ相談会(6月、10月、2月)
- ・生活リハビリテーション講座(9月、1月、3月)

あはつしあうあたたかい街づくり

事業名 地域花壇から生まれた新しいまちづくり

助成額 20万円

◆地域での課題

地域花壇を作り、地域の仲間と活動する中で、商店の廃業や一戸建てが減り、マンションが増えたことで、住民同士のコミュニケーションが不足し、関係が希薄になっている。

外国籍の方も多く生活をする地域で、生活習慣の違いを知る機会もないままになっている

◆基金事業概要と達成した成果

地域花壇のある緑道を生活路とする人に声をかけ、いくつかのWSを開催。

○ノルディックウォーキングで町を歩こう

トレーニング+地元の街歩き

○梅シロップを作ろう

近隣の方にお庭にある梅の実を分けていただき、地域の方とシロップを手作りする
分けていただいた方とWSに参加した方との交流と手作りしながらいろいろな地域の知恵を知るきっかけ

・同様に干柿作り、柑橘でポン酢作りを行った

○自治会との連携・防災訓練

東京工大とも連携し、地域行事に親子連れが参加しやすいブースづくりをした。

ここで、地域についてのアンケートを実施(学生がレポートをまとめ、授業で発表)

○tanetomi サロン

月1回夜に情報交換のお茶会を開催



ノルディックウォーキングとそのあとの交流会



梅シロップ・ポン酢
干柿



◆これからの取り組み

・イベント・WSの広報が人手と時間がうまくいかず、少人数での開催になりがちで活動の趣旨が広まりにくかったので、以降は声掛け、SNSを効率よく使えるよう工夫する。

・地域の資源(梅・柑橘類)を利用したコミュニケーションWSは好評だったので、もっと広げて且つ継続的にコミュニケーションが取れる仕組みづくりを考える。

・参加してくれた人は、次回の企画運営者として参加するよう促し、地域の情報が行きかうコミュニティにしていきたい。



防災訓練参加

団体名 tanetomi(種と実)

会員数 4名(運営)

設立 2024年(令和6年)4月

団体の活動目的
活動実績

活動目的

・花を通じて身近なしぜんにふれる場所・体験の創出

・地域の植物資源を活用し コミュニケーション豊かなみんなが笑顔で住みやすい街をつくる

和を遊ぶ・和を学ぶ・和をつなぐ

事業名 和文化研究さくら

助成額 20万円

◆地域での課題

日本人でありながら日本文化や伝統芸能に触れる機会が少なく、地域交流も薄れつつある現代。徒歩や自転車、電車やバスで気軽に訪れ体験できる遊び・学び・交流の場を提供し、地域に貢献していきたいと考えています。

◆基金事業概要と達成した成果

本事業では、自主企画「寺子屋さくら庵」と出張ライブ・ワークショップの二本柱で活動を展開しました。

「寺子屋さくら庵」はこれまで計12回開催し、地域の方々に学びと憩い、そして日本文化を通じた交流の場を提供し、地域の文化交流の基盤づくりに寄与しました。また外部活動として、大田区・品川区主催イベントへの参加や、特別出張所・シニアステーションでの出張ライブを実施し、活動の幅を拡大。より多くの方に日本文化に触れる機会を届けることができました。

◆これからの取り組み

これまでの活動で日本文化に触れる機会の創出と地域交流の場づくりに成果を得ました。

今後は「寺子屋さくら庵」の継続と内容充実を図り、幅広い層が楽しめる講座を展開します。

あわせて子どもやファミリー世代への参加促進、外部連携の強化により活動を広げ、担い手育成と地域主体の文化基盤づくりを目指します。



第九回寺子屋さくら庵の様子



出張ワークショップの様子



シニアステーションへの出張ライブの様子

団体名 一般社団法人和文化研究さくら

会員数 22名

設立 2022年(令和4年)6月

団体の活動目的
活動実績

わたしたちは日本文化や伝統芸能を次の世代へ伝えていくことを目的に日々活動しています。そして、この活動が世代を超えた交流や、地域の活性化につながっていると実感しております。

と き わくわく ドキ土器 雪谷ウオッチング！ (2025年度)

事業名 絵本の制作・出版・配布(寄贈)

助成額 15万円

◆地域での課題

核家族化、少子化、共働き等家族の状況で、地域での人の繋がりが疎遠であったり、郷土愛を感じたりすることが少ないことが地域での課題です。

7/17 縄文土器に触れ、絵本の読み聞かせ



どれどれ、重い？ ワタシにも持たせて～！

◆基金事業概要と達成した成果

スタートアップ事業の採択を受けたからこそ運営基盤が安定し、学校や児童館等、公共施設の信頼を得、スムーズに対応できました。

◆これからの取り組み



8/25 小学校での読み聞かせ



11/24 土器や土偶創り



7/21 ティールグリーンにて

・区内には約240か所も遺跡があります。
 ・雪谷には6千年～8千年前から人が住み、平和で仲良く暮らしていた事を住民に知って欲しいです。
 それは郷土愛や隣人愛の醸成、誇りに繋がると思います。
 ・地域住民・児童、企業、団体への周知、協力を得ながら「絵本を通して地域を知ること」で「共に生きる意義」を考えるきっかけにして欲しいです

【1】専門職のアドバイスのもと絵本の制作:縄文土器研究家、司書、フリーアナウンサーなどのお話を開催したところ、一歳の幼児から障害者や高齢者まで、興味を持って楽しんでくれました。包括的な関わりの中で意義深く、今後更に広まっていく可能性を感じました。

また今回、絵本作家藤本四郎先生に師事している会員自身が絵本第2作に取組んでいます。3月には間に合いませんでした。

【2】絵本の増刷:近隣小学校、区内の全図書館、児童館、保育園等、国立国会図書館の他、今年度は医院の待合室、区内小学校の、読み聞かせの方々にもお渡ししたため300冊が無くなり200冊増刷。昔話をしながら近隣の方々との絵本の立体化の糊付けをしました。

【3】絵本の広まり:ダイバシティ、インクルーシブなお話会となりました。郷土博物館主催の「縄文土器作り」に参加する複数メンバーが野焼きにも取り組みました。縄文土器研究家制作のレプリカを1～2才児も興味を持って触りました。また、説明を聞き、小学生からも高度な質問が飛んでいました。彼らの将来が楽しみです。

【1】関係機関等に寄贈し活用を依頼:郷土博物館などで、すぐ手が届く場所に絵本「ゆきちゃんのタイムトリップ」が並んでいます。

当館友の会会長、学校司書等関係機関との連携を図っています。民生委員・児童委員、青少年対策地区委員会、保護司会等関係ボランティア団体等へ絵本の説明をしながら配布しました。

そして「読み聞かせ」を進めました。私達スタッフも「協働共生社会」を営んでいた縄文時代の生活から学びを更に深めています。

【2】「大森貝塚縄文マルシェ」に参加を表明:来年「モース発見150周年」を迎える大森貝塚のイベントに参加します。大森や品川区との連携の中、多世代交流で地域力の強化に貢献したいです。

【3】今後の展開:「読み聞かせをしたい」という人が増えているので、夏休みなど長期休みを活用して活動を進めます。

・地域の遺跡や歴史を知ること、親子で「自分達の地域に、より関心を持ち自覚と誇りを持ってもらいたいです。

【4】イツコムの取材でYouTubeに流れ、更に拡散しています。

縄文土器 4 種説明



6/14 地域の方々との交流



団体名 ユキガヤウオッチング

会員数 22名 協力者:約66名～

設立 2023年(令和5年)4月10日

団体の活動目的活動実績

・地域の歴史を知ること、協働・共生社会の良さを考えるきっかけとしている。
 ・絵本を創ること、自分たちが住む地域が縄文前期から住み良い土地であったことを見える化できた。
 ・その時代は、助け合って平和に暮らしていたことを知り、自分たちの今の生活を振り返る一助とする。

「抱っこ」で支える家族の絆

事業名 ちょうちょとおはな

助成額 20 万円

◆地域での課題

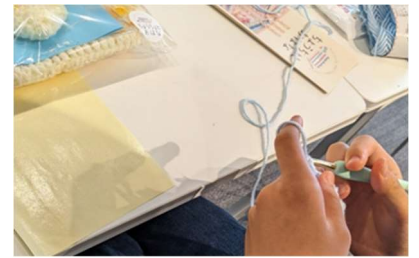
後期流産や死産などで亡くなってしまった小さな赤ちゃんを抱っこするための「ゆりかご」を編み、病院へ寄贈する活動をしています。全国 7 か所の病院へ寄贈していますが、まだまだ抱っこはおろか赤ちゃんに触れることも許されないケースがあります。ご家族が赤ちゃんに触れたいと願っても、悲しみの中にあると声に出すことは難しい場合もあります。そのような経験に対するケアとして、「抱っこ」があり、「ゆりかご」が手助けできると考えています。まずは、地域の方に「ゆりかご」の存在を知っていただき、ご家族のニーズを声に出しやすく、また地域の病院が実際にケアしていただける土台作りが必要と考えています。

◆基金事業概要と達成した成果

区民の方への広報として、活動に関する展示をせせらぎ館のギャラリーにて行う事が出来ました。ステップアップ助成を受けていなければ、チャレンジすることは無かったと思います。展示を見た方から数人ですがボランティア活動についてのお問い合わせをいただきました。夏には学生や大人のボランティア体験の受け入れ、編み物や「ゆりかご」に添えるカード作り、ラッピングを体験していただきました。毎月、作業会も開催出来ました。



せせらぎ館での展示



↑夏ボラでのカード作りと編み物体験↑

◆これからの取り組み

まだまだ知名度は足りません。今年度は思うように活動が出来ない時期もあり、とても歯がゆい一年でした。「ゆりかご」の発送件数も今までもっとも少なく少子化を感じましたが、悲しい出産はどんなに医療が発達しても0にはなりません。1枚でも欲しいという病院へ向けて温かい気持ちと共に「ゆりかご」を寄贈していきます。



ラッピングされた「ゆりかご」

団体名	ちょうちょとおはな		
会員数	14 名	設立	2019 年(令和元年)5 月
団体の活動目的 活動実績	後期流産や死産などで早い週数で生まれた赤ちゃんの肌は未発達のため、病院で赤ちゃんに触れる事をとめられる場合がある。小さな赤ちゃんを安心して抱っこできる「ゆりかご」を編み、病院へ寄贈している。病院での赤ちゃんを亡くしたご家族に対して、「あなただけではない」という温かいメッセージが「ゆりかご」を通して届いている。7 年間で 752 個の「ゆりかご」を寄贈しました。		

こどもの、こどもによる、 こどものためのまちづくり

事業名 池上こどものまち

助成額 40万円

◆地域での課題

近年、こどもをとりまく環境には多くの課題がある。特に地域においては、こどもが自由に主体的に活動できるような場づくりや、幅広い世代の交流機会の創出など、こどもの健全な育成のためのよりよい環境づくりが求められる。安心安全の確保には十分に留意しつつ、こどもがのびやかに遊べる場を増やしていきたい。

◆基金事業概要と達成した成果

本事業は、こどもたちが主体となって「まちづくり」をするという壮大な遊びのイベントで、ドイツの「ミニ・ミュンヘン」をモデルとしている。

第1回目の開催から現在に至るまで、準備段階から小中学生の「コアメンバー」が主体となって活動を行い、世話人(高校生以上)はその実現に向けた後方支援を担っている。4回目の今年度は、開催規模の拡大と活動の持続性向上を目標に、メンバーの募集(チラシ配布)方法の変更や運営体制の強化を図った。

具体的には40名のコアメンバーが中心となって9月から2月まで「デザイン・ワークショップ」を通じて準備を進め、イベント当日は会場面積・参加者数ともに開催規模の拡大(昨年度比1.5倍程度)を達成した。また、持続性向上の鍵となる高学年の参加者数を大幅に増やすことができた。



デザイン・ワークショップの様子



イベント本番の様子

◆これからの取り組み

活動の理念を大切にしつつ、その実現のためにも必要な開催規模の拡大と継続性の向上に取り組むたい。

具体的には、対象とする年齢層の幅広さ(小1から中3まで)を意識した企画や場のつくりかたの探究、区の内外を問わない参加者数の増加やユース層の強化のための告知方法等の工夫などが挙げられる。

また、運営基盤の安定化を目的として、NPO法人の設立を目指している。

第4回 池上こどものまち

2025年3月7日(土)、8日(日)
池上会館にて開催!

詳細については12月上旬からご案内いたします。

市民、保護者(お送りする方を含む)の参加は12月中旬から募集する予定です。

※こちらは小学1年生~中学3年生が対象です。

コンセプトのデザイン
空間のデザイン
しぐみのデザイン
しごとのデザイン
ちのデザイン
etc....

まちをつくるには
いろいろな「デザイン」が必要!

好きなことや得意なこと
をアートデザインを通して
一緒にすてきなまちをつくらう!

2026
3/7土・8日

池上
こどものまち
こどものまち
こどものまち

会場: 池上会館
1階~3階(展示ホール 他)

第4回 池上こどものまち

開催日時: 2026年3月7日(土)、8日(日)
各日 10:00-12:00 / 13:00-16:00
※期間中、お好きな時間にご参加いただけます。
※12:00-13:00は休憩時間です。(休憩には入室できません)

対象: 小学1年生~中学3年生
定員: 500名(2名/家庭、先着順)
参加費: 500円(2日連続参加/当日現金払い)
予約方法: 参加予約フォームよりお申し込みください
(下記URLまたはQRコード)
参加予約フォームURL:
<https://megami-kodomo-4.peetix.com>
※ 定員に達し次第、受付を終了いたします。

「起業」説明会
日時: 1/11日
13:00~14:30
会場: 池上文化センター
※参加予約フォームから
お申し込みいただけます

企画運営: 池上こどものまちコアメンバー会議
後援: 大田区、大田区教育委員会

主催: 池上こどものまちコアメンバー会議
後援: 大田区教育委員会
お問い合わせ先: (E-Mail) megami2022kodomo@gmail.com
令和7年度 大田区地域力応援基金助成事業 (ステップアップ助成)

団体名 池上こどものまちコアメンバー会議

会員数 40名 設立 2022年(令和4年)

団体の
活動目的
活動実績

ドイツ発祥のミニ・ミュンヘン(「こどもの、こどもによる、こどものためのまちづくり」を謳った遊びのプログラム)の池上版を運営・開催し、こどもが主体的に活動できる、安全安心かつ自由な場を創出します。令和5年に池上会館展示ホールにて「第1回こどものまち」を開催。その後も回を重ねるごとに開催規模が拡大してきました。令和8年3月に池上会館本館全体を使って開催された第4回には2日間で271名(各日190名程度)のこどもたちが参加しました。

音楽体験で人生を豊かに

事業名 音楽アウトリーチ活動

助成額 26万円

◆地域での課題

障がい者の中には情動反応が強く出るために生演奏など外部からの刺激に大きな声や身振りで反応してしまい、健常者と共に音楽会に行くことが難しい。

またひとり親家庭では子どもの成長に欠かせない「多様な経験」が不足しがちである。

◆基金事業概要と達成した成果

健常者と共に障がい者と付添い家族にもプロ奏者の質の高い演奏を聴く機会を提供したことで生の迫力を体験してもらった。また分りやすい楽曲解説だけでなく、弦楽器体験コーナーで普段は触れることのない楽器の音を10人近くもの方に出して頂けた。

学習支援塾の児童の親はひとり親が多い。子どもの成長に欠かせない「多様な経験」の一つとして、日常では得がたい音楽体験を親子に提供できた。児童養護施設の子どもらにも生演奏の迫力を体験してもらうことができた。

◆これからの取り組み

児童養護施設の施設長から保育園の紹介を受けたので、2026年度には未就学児童向けにも対象を広げる。

その資金として区の助成金に頼らず、地域のアート団体からの企画委託を受けられるようにする毎年東京藝大楽理科の新入生が入学する時に勧誘する仕組みは出来ているが着実にメンバーを補充していく



令和7年度地域力応援基金助成事業

初めてのクラシックコンサートにも
ぴったりの演奏会!!
弦楽器の体験タイムもあります♪

さぼーとぴあ クリスマスコンサート vol.12

～オーケストラ・プレーヤーによるピアノ五重奏演奏会～


鈴木由美
(ヴァイオリン)


保手浜朋子
(ヴァイオリン)


高橋楓
(ヴィオラ)


小林奈那子
(チェロ)


五味田恵理子
(ピアノ)

2025年 12月6日 (土) 14:00 開演

時間 13:30 受付開始 14:00 開演 (15:00 終演予定)
会場 大田区立障がい者総合サポートセンター5階多目的室
定員-先着60名(11/14 受付開始)
申し込み方法-問い合わせ先に電話またはFAXでどうぞ
問い合わせ先-地域交流支援部門 電話 03-5728-9434 (8:30~17:00、日祝休み)
FAX 03-5728-9438

※ヒアリンググループ受信機の貸出し、手話通訳、要約筆記(手書きノートテイク)をご要望の方は11/28までにお伝えください。

主催:大田区立障がい者総合サポートセンター「さぼーとぴあ」
企画運営:大森室内楽愛好会

オーケストラで活躍する演奏家による演奏会のチラシ:

ブラームスが作曲した室内楽で様々な楽器の組み合わせによって音色が全く変わってくるのを聴いた後、楽器体験コーナーでは実際に普段は触れることのない楽器の音を自分で出してみるの
が好評でした。

団体名 大森室内楽愛好会

会員数 13名 設立 2011年(平成23年)

団体の
活動目的
活動実績

何らかの事情により演奏会に足を運ぶことの難しい方々の所へ出向き、良質の生演奏をお届けする「音楽アウトリーチ活動」を実施することにより生きる希望と元気をもたらすことを目的とする。
これまで大森赤十字病院、さぼーとぴあなど区内の医療福祉施設などで毎年、20から30回の演奏活動の実績を持つ

大岡山の大学生がまちと大学の架け橋に

事業名 “おおお”をもっと知り、もっと好きになるプロジェクト

助成額 30 万円

◆地域での課題

大岡山地区では、東京科学大学の存在が街に大きな影響を与える一方で、まちと学生の繋がりはまだ薄い現状がある。学生や教職員の方々が大岡山を知らないという課題に対して、私たち大学生自身が架け橋となって、まちと大学の距離を近づけることを目的とする。

◆基金事業概要と達成した成果

毎年実施しているまちづくりイベント「飛びまち」を大岡山北口商店街にて実施した。大岡山について独自で調査した内容をまとめた展示や、大岡山への思いを手紙に残す展示、学生や大学 OB による研究発表、科学大天文部との共同天体観測イベントなど、様々な企画を行った。同時期に大学施設の TakiPlaza でも連動して展示を開催し、東京科学大学の学園祭「工大祭」では、建築系有志学生と協力してパネル展示を実施した。25年度はより学生との関係を意識した活動を展開し、活動の知名度向上に努めた。



「飛びまち」会場の様子



大学 OB による研究発表と天体観測イベントの様子
東京科学大学建築学系教授による出張授業の様子

◆これからの取り組み

これまで飛びまちで利用してきた貸しテナントが無くなったことをきっかけとして、さらにまちの回遊性を高めるべく、イベントのまちなかでの分散開催を検討している。さらに、今まで活動を広げられなかった層にもアプローチするため、これまでの調査内容を冊子にまとめる活動を展開する。また、まちづくり団体の大きな課題でもある、経済的自立を目標として今後の活動を検討していく予定。



団体名 おおお知るまちプロジェクト

会員数 8名 設立 2021年(令和3年)

団体の活動目的
活動実績

「大岡山(おおお)」の魅力を発信し、住民や学生、東工大の教職員の方々に大岡山をもっと好きになってもらうことを目的とする。2022 から 4 年間、毎年まちづくりイベント「飛びまち」を開催。ブログサイト note で大岡山に関する記事を投稿し、今年度総閲覧数 9 万ビューを達成。

もっと身近に音楽を

事業名 大田区音楽交流プロジェクト

助成額 30万円

◆地域での課題

- 文化芸術を身近に体験する機会の不足
- 高齢者の方、子育て世代の方に配慮した地域交流の不足
- ”国際都市おおた”の意識不足

◆基金事業概要と達成した成果

概要:

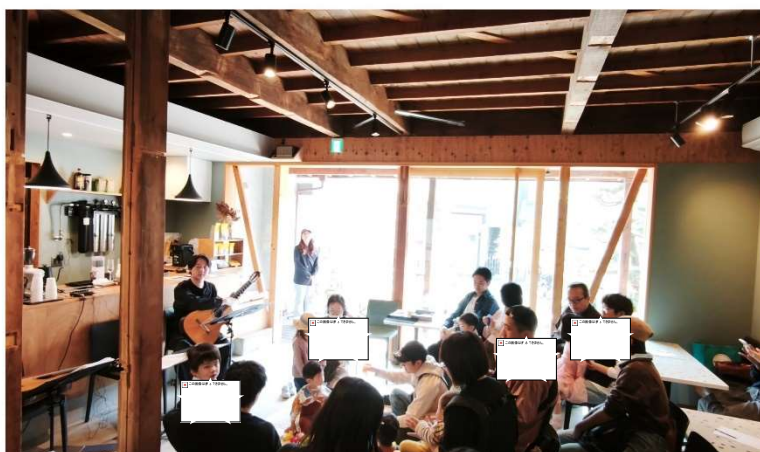
プロ音楽家、外国人音楽家を交えた演奏会、楽器体験、交流の場を地域の身近な環境で提供しました。

成果:

- 赤ちゃん連れのご家族、学生の方、高齢の方、日本在住の外国人の方など多彩な方に参加いただきました。
- 大田区内の幅広い地域からご参加がありました。

◆これからの取り組み

- どのような配慮があれば地域の方が各種イベントにより参加がしやすくなるのか、各所からご意見等を伺いながら理解を深め、活動に活かしていきたいと思えます。
- このような活動を通して、地域の方と対話をする機会を持ち、地域の一員としてできることを増やしていきたいと思えます。



団体名 東京プレクトラム音楽協会

会員数 31名

設立

2019年(令和元年)5月

団体の
活動目的
活動実績

住宅街のカフェやご自宅のリビングをお借りして生演奏のやさしい音色をお届けしたり、保育園や学校で楽器体験の場を提供したりしています。
地域のさまざまな方とのつながりを大切にしています。

つなぐ、ひらく、手仕事の魅力

～匠の技に、ふれて楽しむおおたの工芸～

事業名 大田区伝統工芸展

助成額 30万円

◆地域での課題

創立 13 周年を迎え区民の方々への日本の手仕事の細やかな素晴らしさを楽しんで頂きながら第 5 回大田区伝統工芸展を支援を頂き無事に行う事ができましたことに感謝申し上げます。毎回少づつではありますが区内における伝統工芸に対して関心と触れ合いが身近に感じられ当会への関心も自然にとけこみありがたい限りです。区内小学校への総合学習や区で行うイベント、区民協働のマッチング事業など積極的に縦の関係から横の関係など少しずつではありますが、なるべく多くの団体様との関わり合いを持ち、お互いに共生で健全な成長を成し得ながら伝統工芸展など職人とのふれあいにより関心度も増えてきております。当会の事業運営につきまして素晴らしい経験値のデータが集まり、次回は何を指しどのように対処していくかの道標になります。

今後は「文化芸術」の面に寄与するとともに経済面においても大田区発信の独自の伝統工芸を推し進め、ふるさと納税などの利用も可能な限り全員参加したいと思っております。

◆基金事業概要と達成した成果

実質 2 日間の伝統工芸展でしたがなるべく費用のかからないように合理的に考え、広報では印刷媒体を極力少なくし SNS 関連に比重を大きく移行させ、グローバルな思いで国内外に発信し伝統工芸展に向けてムダがないように取り組んできました。ただしどうしてもボランティアさんなどには常識的な謝金や業者による会場設置依頼、損害保険にお支払いする事があり、やはり必要費用の多くは人件費で謝金や交通費、弁当代、他に会場レイアウトや会場のパネル仕様の POP 媒体などに費用がかかりました。内容的には区内外の方々に対し喜んでいただけたと思っております。

来場者も毎年認知度とともに大勢の方々にお越し頂け、アンケートも昨年度より多くの方に書き入れて頂きマイナス面の箇所に対して、より良い方策が練り上げられ次回の糧とさせて頂きます。

◆これからの取り組み

大田区において平成31年 3 月より『大田区文化振興プラン』が期間満了し新たに区より『大田区文化芸術推進プラン』が始まるようです。微力ではありますが伝統工芸の立ち位置より文化芸術の一端を支えさせて頂き、協力させていただければと思っております。

昔から継続している工芸品は勿論大切な文化では有りますが、工業の町大田区ならではの機械化されてはいるものの最終的には手仕上げでなければならない工芸作品は当会の審査をすませ、新たに近代工芸などの分野を設け大田区独自の柔軟で発展性・将来性のある分野を開拓・開発したいと考えております。また毎年秋に行われている大田区伝統工芸展継続開催に向けて関係各所のご支援ご協力を頂き、努力し大田区民の定着した年中行事の文化イベントの一コマにして頂ければと考えております

団体名 一般社団法人 大田区伝統工芸発展の会

会員数 27名 設立 2012年(平成24年)6月30日

団体の活動目的
活動実績

[目的]会員各位の技術の向上と親睦を図り、社会的評価を高め、会員の社会的経済的地位の向上を図るとともに、大田区内において技術と共に技を健全に発展させ、未来の後継者へと伝承貢献すること。

・「おおたの文化 week in GRANDUO」参加

・多文化共生活動に関する「子供ガーデンパーティー、池上祭り、おおたふれあいフェスタ、などに参加」

・大田区立田園調布小学校 4 年生 120 名への総合学習に参加

どこでも誰でも人とつながれる社会をめざして

事業名 ICT 活用による社会参加推進事業

助成額 30 万円

◆地域での課題

障がいや疾病、家族の介護や子育てなど、さまざまな事情により外出が難しい方々が参加できる地域イベントや働く機会は、依然として十分とは言えません。

そのため、インターネットや ICT 機器を活用し、多様な人々がそれぞれに合った形で関わることのでき



◆基金事業概要と達成した成果

・区内就労支援施設の利用者の方々が IC 機器(以下、OriHime と記載)を操作することで、現地には行きにくいイベント等にも積極的に参加できるように使い方や活用方法を施設職員に説明する機会を作りました。職員の方々の OriHime への理解が深まり、利用者の方々の社会参加の促進や就労意欲の向上に向けて活用してみたいという感想をいただきました。

・おおむすび連合会との連携でおおむすび縁市場で障害福祉施設で作ったお菓子の販売を行い、OriHime を通して売り子体験してもらいました。「働く体験」を得ることで自己効力感や自信が高まり、就労意欲の向上にも繋がったと感じています。

・理事・桑原の講演会や OriHime を使ったゲームを行い、ロボットや障害のある方の生き方などについて知っていただく機会を作りました。参加者自身の価値観が広がり、多様性を受け入れる意識が高まったという感想をいただきました。

・蒲田図書館の「こどもと本のひろば」にて朗読会を行いました。遠隔から OriHime に入り、子ども達に向けて朗読を行ったり、一緒に手遊びやゲームなどを行いました。子どもたちにとっても、ロボットを介した新しい関わり方を体験し、多様な人とのつながりを感じられる機会となりました。

・理事・桑原が大田区生涯学習事業の「深める・つながる講座」にて講演を行いました。この学びの機会をきっかけに、参加者の方々のボランティアや地域活動への参加意欲の向上されることを目標にお話しました。

◆これからの取り組み

より多くの外出に困難を持つ方が参加できる機会を創出するため、交流や実践を兼ねたイベントの企画・実施を行い、参加の裾野を広げていきたいと思えます。また、OriHime を活用し、高齢者施設における見守りや声掛け業務の新たな形を広げていくため、体験会などを実施し、現場での具体的な活用イメージを共有し、導入や運用のハードルを下げていくことを目指します。また、関わる人が無理なく継続できるよう、負担の少ない柔軟な参加形態を取り入れたボランティアの仕組みづくりを整備していくことが



団体名 どこでもオリヒメ

会員数 10 名

設立 2020年(令和2年)

団体の活動目的 活動実績

「外出困難でも社会とつながりたい」といった声に寄り添い、多様な人の社会参加を実現することを目標に設立されました。ZOOM や分身ロボット OriHime 等の ICT 機器を活用し、外出に困難を抱えていても地域のイベントに参加し、地域で人と人がつながり合い、学び合い、誰もが自分らしく生きていける社会を目指し朗読演奏会、社会体験事業、講演会などを行っています。

座学とフィールドワークで学ぶ大田区学講座

事業名

「大田区学」の学びを講座とフィールドワークで推進する事業

助成額

19万円

◆地域での課題

高齢者フレイルが懸念される状況の中、元気高齢者を中心に生涯学習に取り組む意欲がある区民の皆様にも心身共にリフレッシュできるイベントがあまり見当たらない。



◆基金事業概要と達成した成果

【事業概要】大田区の重要施策である Unique Ota「大田区学」(施設・歴史・町並みなど多様な魅力)を学んで大田区プライドを見つめ直し、さらに専門ガイドによるフィールドワークによって更に理解を深めていただくことにより大田区愛を育む講座を目指した。

【事業内容と成果】

令和7年度の講座内容と成果

*満足度は座学とフィールドワークの合計

講座名	受講者数	満足度(◎大変良かった・○良かった)
⑤ 海苔の歴史が薫る古道を訪ねる(6/14)	26名	◎30+○13=43/45:96%
⑥ 洗足池と池上本門寺に勝海舟の足跡を訪ねる(9/20)	22名	◎27+○14=41/45:91%
⑦ 大田区に残る山岳信仰を学ぶ(11/8)	35名	◎42+○19=61/65:94%
⑧ 区民誇りのローカル線(東急多摩川線・池上線)と起点駅・蒲田の歴史を学ぶ(1/25)	36名	◎44+○13=57/57:100%
合計	119名	◎143+○59=202/212:95%

◆これからの取り組み

今年度で地域力応援基金チャレンジ助成事業が終了したが、「座学とフィールドワークで学ぶ大田区学講座」が多くの人々に受け入れられ、好評を博したので次年度も自己資金または課金事業として継続したい。2026年は大森駅開業150周年を、また2027年にはモース博士が大森貝塚を発見してから150年を迎えるため、これらをテーマとした「大田区学講座」を展開したい。



団体名

おおた生涯学習世話人会

会員数

10名

設立

2013年(平成25年)5月

団体の活動目的
活動実績

(目的)大田区民への生涯学習社会の振興:元気高齢者の地域参加促進事業
(実績)平成30年度から令和元年度まで地域力応援基金助成事業(ステップアップ)として18特別出張所管内を対象に地域おしゃべり講座とアクティブシニア交流会を開催。令和3年度以降は地域おしゃべり講座を当該事業の継続事業として実施。令和6年度には地域力応援基金チャレンジ助成事業をまた令和7年度には令和6年度継続事業として2年間にわたり【座学とフィールドワークで学ぶ大田区学講座】を展開した。

デジタルでつなぐ、福祉のしごとと地域の力

事業名

福祉職体験とSNSでの情報発信
～オンライン地域コミュニティの構築～

助成額

233 万円

◆地域での課題

高齢化に伴い福祉人材不足が深刻化する一方、仕事の魅力ややりがい十分に伝わらず、担い手確保が難しい状況にある。さらにシニア層の IT 活用への不安による情報格差もあり、地域活動や就労への参加機会の創出が課題となっている。

◆基金事業概要と達成した成果

本事業では「大田区で働く福祉のしごと魅力発信」をテーマに、SNS を活用した情報発信と、地域住民(主にシニア層)を対象とした IT 講座の開催を柱として取り組んだ。SNS では、福祉現場で働く人の声や日常の様子を発信し、仕事のやりがいや魅力を具体的に伝えることで、福祉分野への理解促進を図った。

また、IT 講座ではスマートフォンの基本操作や SNS の活用方法を学ぶ機会を提供し、参加者が自ら情報を取得・発信できる力の向上を支援した。これにより地域住民が受け身ではなく主体的に地域や福祉に関わる意識の醸成につながった。

さらに、事業の集大成として動画を制作し、活動内容や福祉の魅力を視覚的に伝えるコンテンツを整備した。これらの取り組みにより、福祉の仕事に対するイメージの向上と、地域住民の IT 活用力の底上げという両面で一定の成果を得ることができた。

◆これからの取り組み

今後は、本事業で得られた成果を基盤として、継続的かつ発展的な取り組みを進めていく。まず、SNS による情報発信については、発信体制の強化と計画的なコンテンツ運用を行い、福祉の仕事の魅力をより多くの人に届けていく。また、動画コンテンツについても継続的に制作・活用し、求職者や地域住民への訴求力を高める。

IT 講座については、参加者の習熟度に応じた段階的なプログラムや継続的な学びの場を整備し、地域住民がデジタルを活用して主体的に活動できる環境づくりを進める。あわせて、講座参加者をサポーターとして育成し、活動の担い手として参画してもらう仕組みを構築する。

さらに、福祉事業者や地域団体との連携を一層強化し、情報発信から見学・ボランティア・就労へとつながる導線を整備することで、地域全体で福祉人材を支える仕組みづくりを目指す。

～継続的にデジタルに親しむ機会を創出～

ツイキャス配信(第2・第4水曜日)11:00～11:30
いわゆるインターネットラジオ。地域住民が主体となって、パーソナリティーやシステム担当など役割を分担。



福祉のしごと魅力発信 動画 (Youtube 公開中)



セミナーやワークショップ等の案内や募集を、特設サイトに掲載。本事業のすべての取り組みをサイト上で確認することができる。



団体名

おおた地域見守りネットワーク

会員数

50 名

設立

2008 年(平成 20 年)4 月

団体の活動目的
活動実績

おおた地域見守りネットワークは、医療・介護専門職と地域住民が連携し、「気づき・見守り・支え合う」地域づくりを目指す団体である。2008 年の設立以降、見守りキーホルダー事業や地域づくりセミナー、交流拠点「みま～もステーション」などを展開し、高齢者をはじめ、誰もが安心して暮らせる地域づくりを推進している。

学生が作る「福祉のCM」

事業名 未来の担い手と一緒に考える「福祉の仕事」の魅力発信

助成額 197.3万円

◆地域での課題

支援の必要な子どもが増加しており、支援者の確保・育成が急務であるにも関わらず、福祉業界全体で若手職員の採用難が深刻化している。若い世代に福祉の仕事の魅力が十分に伝わっていないことから、実際に現場で体験し、魅力を感じてもらふ事業に取り組んだ。

<オリエンテーションの様子>



<動画作成の様子>



◆基金事業概要と達成した成果

- ✓大学生・高校生が福祉現場を体験し、その魅力を SNS で発信
- ✓「福祉のお仕事」ショートムービー(CM)を学生自身が企画・制作
- ✓学生や保護者へアンケート調査を実施し事業評価してもらうとともに、自分事ととらえてもらう
- ✓大田区内の福祉施設に対し、広報や SNS 発信支援など IT 部分の支援

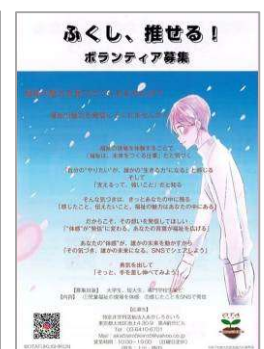
<障害児通所施設での体験の様子>



<学生ボランティア募集・事業告知用チラシ>

◆これからの取り組み

- ✓Instagram など若者向け SNS を活用した継続的な魅力発信
- ✓大田区内の大学・高校とのネットワークを活かした連携拡大
- ✓将来の福祉の担い手育成に向けた裾野の拡大
- ✓他の福祉団体への SNS 活用ノウハウの横展開



団体名 特定非営利活動法人あかしろきいろ

会員数 11名 設立 2011年(平成23年)

団体の活動目的
活動実績

この法人は、子どもの人権が尊重され子どもを取り巻く環境が豊かになることを目指して、子どもや子どもにかかわるすべての人々に対して子どもの育ちや子育てを支援するとともに、様々な特性や育ちへの課題を持つ子どもたちへの直接支援活動及び周囲の人々の理解を深めるための啓発活動など、地域で支えあい育てあうための事業を行うことにより、子どもが安全で安心して全人的に育つ社会作りと誰もが地域で安心して暮らしていける健全で豊かな地域社会の確立に寄与する事を目的とする。

大田区防災アプリを使ってみよう！

事業名 女性や高齢者向け防災アプリ活用方法の普及啓発

助成額 67万円

◆地域での課題

今年度、豪雨災害が大田区内でも発生しており、自然災害の脅威が身近にあるにも関わらず、「喉もと過ぎれば熱さ忘れる」ということわざ通り、地域の中での自助の備えが進んでいない状況があります。「災害がおきれば避難所へ行く」「避難所へ行けば誰かが何とかしてくれる」といった風潮から抜けきれていない区民も少なからずいます。在宅避難を想定した備蓄や住宅の備え、災害関連死を招かない為の知識や備えを、地域住民一人一人がしっかりと身につける事が、安心・安全な地域づくりにもつながると考えます。

◆基金事業概要と達成した成果

昨年度より引続き、シニアステーション3回、児童館1回、小学校3回、地域包括支援センター7回、ふれあい元気塾他2回、出張所2回、こども食堂2回、地域イベント2回、町会防災訓練5回、計27回、延べ約1,140名対して啓発活動を行ないました。

まずは防災アプリの重要性を認識してもらう為に、昨年度作成したオリジナルテキストを講座ごと、受講者に併せて再編集しました。アプリをスマホにダウンロードする際には、日常での使い方までのサポートを行ないました。講義後のアンケート調査では、参加者の満足度は91%以上という結果になりました。又、防災アプリ利用者について「大田区防災アプリ」の利用率について調べたところ、61%となりました。アプリの利便性や重要性を知ってもらうことによって、認知度が向上したのと思われます。



◆これからの取り組み

今年度は、大田区総合防災訓練に2回参加する事ができ、参加者の方々に防災・減災啓発を実施する事ができました。各自が災害時のトイレ問題や防災アプリの使い方を知る事によって、災害を「より自分事」として感じ、「在宅避難」の為に準備を進め「自助力」を向上させことにつながります。更に、「防災意識の共有」を地域で行なうことにより、顔の見える関係づくりが促進され、発災時「共助」が機能する地域になると考えます。行政や町会と連携しながら、災害に強い地域づくりに貢献していきたいと思えます。



団体名 特定非営利活動法人 CONNECT

会員数 11名

設立 2019年(令和元年)

団体の活動目的
活動実績

女性の目線を大切にした防災・減災活動を行なっています。CONNECT とは繋ぐという意味があり、災害発生という最悪な状況下に於いても、多様な人々が地域の中で繋がりを、寄り添い支えあえる社会の実現を目指して活動しています。任意団体時から地域力応援基金を活用し、大田区内で自助力の向上と地域での共助の重要性を広めています。



地域力応援基金への ご寄付のお願い



様々な地域の課題解決のために活かされています！



地域力応援基金は、区民や事業者の皆様からの寄付金を積立て、区内で活動するボランティア団体やNPO、地縁団体等が実施する公益的な事業を支える基金です。

1 寄付金の活用

地域力応援基金へのご寄付は、「地域力応援基金助成事業」として大田区の財産となるべき地域力の発掘・活性化をすすめるために活用させていただいております。

2 寄付の方法 (寄付する場合には以下4つの方法があります)

(1) インターネットによりキャッシュレス決済する

寄付金額が 2,000 円以上の場合、ふるさと納税関連サイトからクレジットカード等のキャッシュレス決済により納付することができます。申込については右下の二次元コードをご確認ください。

(2) 納付書によりお近くの金融機関で振り込む

大田区 HP 内の地域力応援基金寄付申込フォームから申してください。後日納付書をお送りしますので金融機関窓口でお振込みください。なお、振込手数料はかかりません。

(3) 現金書留で郵送する

寄付申込書を同封の上、下記まで郵送してください。郵送料等は恐縮ですが、お客様でご負担ください。

(4) 直接現金をお持ちいただく

下記窓口にお越しください。寄付申込書はその場でご記入いただけます。

3 寄付申込書の入手方法

寄付をする場合には寄付申込書が必要です。寄付申込書は、大田区 HP からプリントアウトするか、下記問合せ先までご連絡ください。後日郵送でお送りします。



大田区 HP

4 ご寄付いただいた後の流れ

- (1) ご寄付いただいた後、概ね 1 か月以内にお名前・ご住所宛てに寄付受領書をお送りします。
- (2) 区 HP 掲載 ※希望者のみ



令和7年度 地域力応援基金助成事業活動報告書

発行年月:令和8年7月

発行:大田区地域未来創造部地域力推進課

区民協働・多文化共生担当

〒144-0052 大田区蒲田四丁目 16 番8号 2階

TEL:03-5744-1204 FAX:03-5744-1323